

IDL 8.8 SP3

リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<https://www.l3harrisgeospatial.com/Software-Technology/IDL>

このリリースノートは次の項目に分かれています。

内容

IDL8.8 SP3 のサポートプラットフォーム	2
IDL8.8 SP3 の新機能	4
IDL8.8 SP3 のライブラリアップデート	4
IDL8.8 SP3 の下位互換性の問題	5
IDL8.8 SP3 の既知の不具合	5
IDL8.8 SP3 で修正された問題	6

IDL8.8 SP3 のサポートプラットフォーム

IDL8.8 SP3 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。サポートバージョンに変更があるため、ソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン b
Windows	Intel / AMD 64-bit a	Windows	10, 11
Macintosh	Intel 64-bit	macOS	10.14, 10.15, 11, 12 c
	M1		11, 12 d
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 4.18.0 glibc 2.28

a: IDL8.5 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの IDL を起動する場合は、「ENVI5.6/IDL8.8 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI / IDL の起動方法」をご確認ください。

b: サポートバージョン中の記載は、IDL の構築・テスト環境を示しています。弊社による公式のサポートは、表に記載されたインストール環境に対して適用されます。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.8.2 にて動作確認されています。

d: M1 チップマシンには、Rosetta2 エミュレータが必要です。

推奨環境：

本製品を快適に利用するために 1GB 以上のメモリを持つグラフィックボードの搭載と、バージョン 2.0 以降の OpenGL のマシン環境を推奨します。また、搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。ヘルプシステムは HTML5 対応ブラウザを必要とします。

また、現行の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	4GB
メモリ	8GB
CPU	最小 2Core 推奨 4Core 以上

ライセンスサーバーのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバー（Flexnet License Server）を使用します。そのライセンスサーバーのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバーをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2012, 2012 R2, 2016, 2019 Windows 8.1, 10
Linux	x86-64	Cent OS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16, 18

また、現行の Flexnet License Server 2020.07 の動作に要求される最小のマシンスペックを以下の表に示します。インストールを行うマシンが以下の性能を満たしているか、必ずご確認ください。

ハードウェア	最小スペック
ハードディスク容量	500MB
メモリ	4 GB
CPU	2GHz – 2 Cores

その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

IDL8.8 SP3 の新機能

詳細は以下のページをご参照ください。

<https://www.l3harrisgeospatial.com/docs/WhatsNew.html>

IDL8.8 SP3 のライブラリアップデート

・以下のサードパーティライブラリが新バージョンに更新されました。

- P4Eclipse 2021.2.2264919
- curl 7.85.0
- Eclipse Temurin JDK 17.0.4
- Eclipse Temurin JRE 17.0.4
- Esri Projection Engine 12.9.0
- FFMPEG 4.4.2
- Jackson-json-processor 2.13.4
- Libtiff 4.4.0
- libxml2 2.10.2
- OpenSSL 1.1.1q
- POCO 1.12.1
- SQLite 3.39.3
- Zlib 1.2.12

IDL8.8 SP3 の下位互換性の問題

IDL8.8 SP2 以降では Java17 を使用します。以前のバージョンの IDL プログラムに Java8 のコードがあった場合、Java17 を使用して再コンパイルが必要になる可能性があります。

IDL8.8 SP3 の既知の不具合

MacOS における HELP 表示の問題

IDL ヘルプ機能を macOS 標準ブラウザである Safari で表示すると、「The operation couldn't be completed」と表示される、あるいは、空白のページが表示されるエラーが発生します。一般に、Safari はローカルファイルの操作に対して制限がかけられています。このエラーは、ヘルプシステムによって自動作成された一時的な HTML ファイルが特定の IDL ヘルプコンテンツへのリダイレクトを実行しようとしたときに発生します。

ヘルプを表示するための 2 つの回避策があります。

1. Safari で、[ローカルファイルの制限を無効にする]設定を有効にする。
2. Safari でローカルファイルの制限を無効にしない場合は、ブラウザとして Chrome または Firefox を使用して IDL ヘルプコンテンツを開く。

Linux で Firefox を使用して IDL Help にリモートアクセスするケースの不具合

Linux 環境で Firefox を使用してリモートで IDL ヘルプにアクセスすると、以下の状況でコアダンプクラッシュする可能性があります。

- ・ ローカルマシンの IDL_HELP_BROWSER 環境変数が Firefox にもかかわらず、リモート接続先のデフォルトブラウザが Firefox でないケースで idlhelp コマンドを使用した場合

回避策は以下になります。

1. idlhelp コマンドを使用する前にローカルマシンで Firefox ブラウザを起動する。
2. WEB の L3Harris Documentation Center のヘルプ記事を参照する。

気象庁の grib2 形式のファイルを IDL の grib_list プロシージャで正しく読み取れない

国際気象通報式 FM92GRIB 二進形式格子点資料気象通報式 (第 2 版) (GRIB2) に則り提供されている気象庁のデータファイルを、IDL の GRIB_LIST プロシージャで正しく読み込むことができない問題が確認されております。このプロシージャで取得できる要素は、ファイルに登録された複数ある変数のうち一つのみであり、全ての要素を正常に取得することができません。

IDL8.8 SP3 で修正された問題

ID	解 説
IDL-69692	JULDAY と CALDAT は、わずかに不正確な結果を返していました - MODIFIED キーワードを追加しました。
IDL-69844	TEXT グラフィックが多数の入力をレンダリングするのに非常に長い時間がかかっていました。
IDL-69902	FILE_GUNZIP が BUFFER キーワードを持つ変数に 4GB 以上を読み込むのに失敗しました。
IDL-69913	l18N:FILE_ZIP が拡張 ascii 文字を正しく扱えませんでした。
IDL-69970	FILE_UNZIP は、Sentinel 2 データでエラーを引き起こしていました。
IDL-70263	MAKE_RT は、Mac でパーミッションが原因で失敗していました。
IDL-70598	File_ZIP はフォルダーを正しく圧縮しませんでした。
IDL-70683	Java->IDL Export Bridge は IDL 8.6 以降 のライセンスモードをサポートしていませんでした。
IDL-70774	FORMAT キーワードにメモリリークがありました。
IDL-70804	Ubuntu 18+ & RHEL/Centos 7.9+ で WIDGET_PROPERTY SHEET が IDL でセグメンテーション違反になりました。
IDL-70805	FILE_GUNZIP を使用して .tgz ファイルを解凍すると、サイズが急激に大きくなるがありました。
IDL-70806	IDL の FILE_UNTAR ルーチンはサブディレクトリをサポートしていませんでした。
IDL-70842	他のプログラムが STOP しているときに .edit Editor タブのフォーカスが予期せぬ動作をすることがありました。
IDL-70865	IDLDE と IDL コマンドラインによって返される画面サイズと解像度が同じではありませんでした。

ID	解 説
IDL-70866	IDL インタープリタがリスト/ハッシュ呼び出しの後に間違った場所で停止していました。
IDL-70872	WIDGET_SLIDER のデフォルトのスクロールホイールの動作が、Linux では 3 単位でしたが、以前は 1 単位でした。
IDL-70873	macOS Monterey で app から MAKE_RT アプリケーションを実行できませんでした。
IDL-70902	ブレークポイントで停止中に IDL Workbench コンソールで何かを実行すると、エディタがブレークポイントにジャンプして戻りました。
IDL-70903	WRITE_PNG は 32 ビット制限があり、700 メガピクセル以上を書き込めませんでした。
IDL-70904	ハッシュに含まれる配列に適切に添え字されないことがありました。
IDL-70908	MacOS のファイアウォールが有効な場合、ユーザーは起動毎に IDLDE を "許可" する必要があります。
IDL-70911	COM->IDL Export Bridge は IDL 8.6 以降 のライセンスモードをサポートしませんでした。
IDL-70912	浮動小数点の Implied Print が無効な JSON を生成しました。
IDL-70918	IDL 8.8.2 で .RUN が正しく動作していませんでした。
IDL-70930	HIST_EQUAL がスケール範囲の端にある値に対して不正な結果を返していました。
IDL-70938	IDL が LISTS および SAV ファイルに NULL 文字列を含む構造体を使用するとクラッシュしました。

お問い合わせ

ご質問は、以下テクニカルサポート宛てにお問い合わせください。

Harris Geospatial 株式会社

製品技術サポート担当

Email : support_jp@L3harris.com